

このガイドは、行政機関、保健機関、医療機関などで

「赤ちゃんが泣きやまない ——泣きへの理解と対処のために——」

のDVDを活用する上での留意点等を
指導者向けに示すものです。

視聴者への説明の際、参考にしてください。



1.DVDの目的

赤ちゃんの泣きの特徴とその対処法を理解してもらうこと、特に、泣きやませるために激しく揺さぶったり口を塞いだりしてはいけないことを認識してもらうことを目的に作成されています。

2.DVDの内容

大きく、下記の3つの内容で構成されています。全体を視聴することで正しく理解できるよう作成されていますので、できるだけ11分間全て視聴してもらってください。

- ① 赤ちゃんの泣きの特徴の理解
- ② 泣きやませようと揺さぶった場合の影響
- ③ 赤ちゃんの泣きへの対処法の紹介

3.視聴の対象者と活用の場面

妊娠期にある父母や乳児を抱える養育者、乳児の世話をする可能性がある全ての方に視聴してもらってください。

産科医療機関に入院中の教育プログラムや退院指導、両親教室、子育て教室など集団の場でも、家庭訪問といった個別支援の場でもかまいません。家庭訪問の場合は、ポータブルDVDプレーヤーを活用すると便利です。

赤ちゃんが泣きやまない

泣きへの
理解と対処
のために

DVD活用ガイド 指導者向け





このDVD活用ガイドは以下の皆様の協力・監修により作成いたしました。

独立行政法人
国立成育医療研究センター研究所
成育社会医学研究部 部長 藤原 武男 医師・医学博士

認定特定非営利活動法人
子ども虐待ネグレクト防止ネットワーク
理事長 山田 不二子 医師

4. 補足して伝えたいことがよいこと・伝える際に気をつけること

赤ちゃんの泣きへの対処法

赤ちゃんの泣きへの対処法は、ミルクやおむつ替えなど生理的な欲求に応える以外にもたくさんあります。DVDでは、その一例を紹介していますが、指導者の方が有効と考える他の対処法もぜひ紹介してください。ただし、DVDで紹介している内容や他の方法を試しても泣きやまず、自分の子どもがおかしいのではと思い悩む親もいますので、全ての子どもに効果があるわけではないことも伝えてください。また、発熱や嘔吐などの症状がある場合は医療機関を受診すること、さらに泣きやまず心配であればいつでも医療機関を受診してよいことを伝えてください。

揺さぶりとおやしの説明

「乳幼児揺さぶられ症候群」になることをおそれ、(首や体をしっかり支えた状態での)高い高いや横向きで抱っこをして揺らすなどのおやしを行うことに過敏になることがあります。

説明の際には、「このくらい揺さぶるとなります。」という伝え方よりも、揺さぶりにおいて、頭が前後に激しく揺さぶられる状態が危険だということを伝えてください。

ただし、頭が前後に激しく揺さぶられないからといって、赤ちゃんを空中に放り投げる行為(これを「高い高い」と捉える人もいます)など、落下といった別の危険性がある行為をしてはいけません。当然です。赤ちゃんの月齢や発達状況にあわせたおやし方を理解してもらってください。

また、もしも赤ちゃんを揺さぶってしまい、赤ちゃんの具合が少しでもおかしいと思ったら、迷わず医療機関を受診し、揺さぶったことを隠さず医師に伝えること、そのことが子どもを救うために重要なことも伝えてください。

育児に関する相談窓口の周知

DVDでは、泣きだけを取り上げていますが、泣きへの対処は育児の一部です。また、同じような泣きをされても、その時その時の養育者の心理状態によりイライラする度合いは変わります。DVDの視聴をきっかけに、養育者の不安や悩みを把握し、その解消に努めてください。あわせて、育児に関する地域の相談窓口も伝えてください。

5. 関係者の理解

このDVDの内容を実践するに当たって、泣き声ややまない等の理由で近所から児童相談所等に通告されるのではないかと心配する養育者もいるかもしれません。

まずは、各地域において、関係機関の職員がこのDVDを視聴し、赤ちゃんの泣きに関する理解を深め、養育者を支援してください。